まちを創る　暮らしを支える
建設業
若い力求む！

未来に残る仕事を―。土木・建築工事などを通じ、人々が安全で安心して暮らしていくための社会基盤整備やまちづくりに関わる建設業。災害復旧や除雪など暮らしを支える役割を担い、地方創生を実現していく上でも欠かせない存在といわれる。技能・技術系の労働者不足が常態化する中、業界は若い力を求めており、未来を担う人材の育成を急いでいる。

活躍する若者紹介

建築の仕事　まちづくりで未来を築く

土木の仕事　インフラ整備で生活を支える

建設業の魅力

興洋工務店社長
建設業協会監事　亀井勲氏に聞く

未来に残る仕事
人間力を養える

建設業で働く喜び、やりがいについて、土木現場の技術者を約40年務めた興洋工務店（鳥取市）社長で、県建設業協会監事の亀井勲氏（62）に聞いた。

―業界の就業者の現状は。

55歳以上が3割以上を占める半面、29歳以下が1割程度と高齢化が進む。2015年は1997年との比較で現場監督などの技術者が2割強、監督の指示で建設機械を操作したり、型枠・鉄筋を組み立てる職人などの技能労働者が3割弱減った。技術者の育成には10年かかる。若手人材の確保は急務だ。

―「地図に残る仕事」といわれる。

自分が携わったものが未来に残るのは、やりがいの一つ。近年は、除雪による生活道の確保、台風時の排水ポンプの設置も含め、災害時における業界の存在の重要性が見直されている。

―技術者に求められる資質は。

一番はコミュニケーション能力。想定外のことが起こりやすい労働環境は日替わりメニュー。その中で工程・品質・安全・原価管理など現場をうまくまとめなければならない。20代の現場監督にも3億円の仕事を任すことも。大変さの裏にやりがいがある。人間力を養える仕事だと思う。

―公共工事が減ると、施設の維持・管理にシフトするだろう。

体質は変わっても、インフラを守る私たちの仕事はゼロにはならない。人工知能、データの三次元化、ICTの導入などに対応する形で会社のスリム化が求められるだろうが、緊急時の災害支援など経験に基づき判断できるマンパワーは絶対に不可欠。会社の経営にはその辺りのバランスも求められる。

やまこう建設（鳥取市）土木部
田中　靖浩さん（26）
資格の取得を目標に

測量の仕事をしていた父の影響を受け、建設業を志した。高校2年時に測量士補の資格を取得し、鳥取大工学部で専門知識を学んだ。

公共性の高い大型事業中心の土木の道を選択した。入社後は現場監督員として、橋脚を造る現場などを経験。現在は国道9号の渋滞緩和の解消に向け「鳥取西道路」の建設に携わる。

「何もない所に一から、長く残る構造物を造ることにやりがいを感じる。地域住民が心待ちにするインフラならなおさらだ。生まれ育った地域に貢献したいという思いが強い。

「今は自分の現場を持つための準備期間」という。当面の目標は、公共工事現場の責任者になるために必要な資格「1級土木施工管理技士」の取得。しっかりと将来を見据える。

馬野建設（琴浦町）建築部
石井　和子（わこ）さん（38）
感性生かし幅広げる

インテリアに関心があり、入社当初は個人住宅をメインに手掛けていたが、自らの希望で学校、庁舎など大型物件にも挑戦。仕事の幅を広げてきた。

「工種が多くプロの職人さんが入り交じる建築現場で、うまく工事を進めることが役割。たくさんの出会いも仕事の魅力」と語る。

女性の進出が増える業界にあって、同社に現在3人いる女性現場監督の1人。設計やデザインなどに生かせる細やかな感性が女性の強みと認識している。

4歳になる1児の母で、今は育児中心の毎日。時短勤務制度などを活用し、主に設計業務などに携わっており、女性が働きやすい環境を喜ぶ。

心の片隅に潜む「男性陣に負けたくない」思いはしばらく封印。再び現場中心に戻る日を楽しみにしている。

美保テクノス（米子市）土木部
門脇　優さん（30）
優良工事表彰目指す

学生時代に専攻した土木の知識を生かし、この職場を選んだ。現場監督歴は5年になる。道路や河川、海岸などの公共工事を担当。工事の計画や作業員の安全確保、行政との打ち合わせなど、工事全体を管理している。

「頭を下げることがこんなに気持ちいいことだとは…」仕事を通じて初めて味わった感覚。工事が無事完了したとき、施主への感謝と達成感が重なり、高揚する。仕事の醍醐味でもある。

昨年11月に結婚したばかり。「国交省工事の監理技術者になり、優良工事表彰を受けたい」という目標を掲げる。

団塊の世代が現役を退きつつある現状に直面。若手にとっての好機と捉える一方、近い将来業界の中核を担うであろう世代の一員として、気を引き締める。

人材確保・育成へ建設業の魅力発信

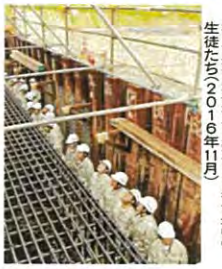
出前講座や工事現場見学会

業界の未来を担う若手技術者の確保・育成のため、鳥取県建設業協会は、出前講座や工事現場見学会を展開し、建設業の仕事の魅力を発信。県も技術者の資格取得に支援するなど、官民を挙げた取り組みが進んでいる。

業界に長く携わった講師陣が仕事の内容などを座学で伝える出前講座は、建設業を就職先として考えるきっかけにしてもらおうと、生徒・学生に直接アピールする絶好の場。

普通科、農業系の高校にも出向くなど、担い手の裾野を広げていきたい考え。本年度は初めて、大学生（鳥取大工学部1年生）を対象に実施する。同協会事務局は「専門知識を学んでいながら、大手ゼネコンなど県外志向の強い大学生らに、県内企業にも目を向けてもらいたい」としている。

また、土木系学科で学ぶ高校生向けには毎年、1年生を対象に工事現場の見学会を実施。



橋脚工事の現場を見学する鳥取工高の生徒たち（2016年11月）

高速道路や河川改修、大規模な建物の工事現場で工法などを説明し、仕事の醍醐味を伝えている。

2年生以降は実際に企業に赴き、一定期間職場体験するインターンシップを推進。本年度は建設関連企業38社がそれぞれ主体となって県内3高校から65人を受け入れた。

担い手不足により将来、業界として社会資本の整備や維持管理、災害時の復旧、豪雪時の除雪などが十分果たせなくなることへの懸念が広がる。

このため県は2015年度、「建設労働者等スキルアップ事業」として、土木施工管理技士（1、2級）の資格を取得するため民間研修を受講する際、受講料の一部を支援する補助金制度を創設。本年度は1級の学科合格率が前年比5割増えるなどの成果があった。

米子南高で開かれた出前講座（2015年12月）

安全・安心を下支えする
鳥取力「建設業」

若者よ 建設業は待っている！
建設業で働く仲間は、
地域の安全・安心、
より快適な暮らしづくりに活躍しています。

一般社団法人
鳥取県建設業協会
鳥取市西町2丁目310（鳥取県建設会館内）
TEL0857(24)2281㈹
http://www.tori-ken.or.jp
鳥取県建設業協会　検索